

since 1995.12
2021年3月発行

社会福祉法人SKYかわさき

〒214-0014 川崎市多摩区登戸 2341-1
TEL : 044-299-6526
FAX : 044-922-6628
HP : <http://www.sky1995.com/>

SKYかわさき通信

第45号

「たすきをつなぐ」

理事長 三橋良子

社会福祉法人SKYかわさきは2020年7月に川崎市より認可を受け設立。2020年11月1日には、NPO法人たま・あさお精神保健福祉をすすめる会（愛称SKY）からすべての事業を移譲されて志新たに出発した。SKYは1995年、市民団体として設立。地域交流を深めて2005年にはNPO法人格を取得し、様々な障害福祉事業に取り組んできた。設立当初からの、「精神障害者の社会参加をすすめ、誰もが自分らしく豊かに暮らせるまちづくりを行う」という理念をより確かなものにするために、2年間の法人あり方検討会、法人設立準備委員会を経て、このたび社会福祉法人SKYかわさきを設立。NPO法人はその全事業を社会福祉法人へ移譲させたのち、2021年1月12日、役割を終えて解散した。

通信たま・あさお第1号は1995年10月の市民団体設立総会と同日の定例会「私たちの望むまちづくり」と題するシンポジウムを記事として紹介している。セピア色の紙面から、家族会代表、作業所職員とともに壇上にたった病院婦長が、退院できない大勢の長期入院者を見続けることの苦しさを号泣しながら語った場面が、蘇る。振り返ってみれば、毎年総会後のイベントは次の事業を示唆してきた。翌年、グループホーム「あんじょうやりや」がスタートした。2010年からは拡大した8事業所の通信を統合させ、NPO法人の愛称SKYを通信冠に掲げた。

2021年の本号からは社会福祉法人名を冠とした通信SKYかわさきとして発行していくが、その理念も「精神障害のある人が、自らの望む暮らしを実現させるために、人と人がつながりあえるまちづくりを行う」という行動指針にも変わりはなく、したがって通信の号数も通信たま・あさお第1号から通算し第45号として継承していく。

今年度、SKY設立25周年を記念して記念誌を編集しているが、地域づくりをすすめるために複数の団体が意思をもって合流したとは言え、出自の異なる事業所の歴史はあちこちに散逸しており、また草の根でつながる組織の姿は風が吹いては姿を変える草原のようにとらえどころがなく、年表をまとめるためには25年間継続した通信が非常に役だった。また、法人あるいは各事業所でお世話になった方々から、真心のこもったご寄稿をいただいた。紙面を借りて御礼申し上げたい。社会福祉法人には正会員制と総会はないが、当事者性、地域性、市民性を大切に草の根活動を展開してきた法人の歴史を守り、社会に開かれた社会福祉法人であり続けるために、賛助会員と普及啓発事業は継続していく。時あたかも、新型コロナウイルスが猛威を振るっている。今はじっと辛抱の時だが、25年間に繋いだ信頼の草の根は、時がくれば緑の草原となって萌え出す。

「SKY かわさき」法人本部からのお知らせ

令和2年4月30日、社会福祉法人設立認可申請書を川崎市へ提出し、7月29日に認可されました。
法人設立後に選任された理事、監事、評議員は下記のとおりです。

理事

理事長	業務執行理事	業務執行理事	業務執行理事	理事	理事
三橋良子	青野眞美子	大友わかさ	嘉門琢美	篠原宏江	金森孝之

監事

竹下とし子	行政書士
三村 健	精神保健福祉士

評議員

岡部 健	他法人施設長	田草川 武	家族会役員
坂本 勉	会社員	武田 龍太郎	他法人役職員
十文字 陽一	精神保健福祉士	谷 みどり	他法人役職員
池原 毅和	弁護士	築根 俊明	精神科医

賛助会のご案内

令和2年11月1日にNPO法人「たま・あさお精神保健福祉をすすめる会」より全事業を引き継ぎ、社会福祉法人SKYかわさきとして新たなスタートを切ることができました。これもひとえに皆様方からの心強い励ましとご協力のたまものと心より感謝申し上げます。

さて当法人では賛助会を引き続き設置させていただくことになりました。今後も地域福祉の発展に向け、日々精進していく所存ですので、活動の趣旨にご賛同いただける方は、ぜひご協力・ご入会をお願いいたします。賛助会員様には、当法人の通信を送付いたします。賛助会費は個人一口1000円、団体は一口5000円です。会費は1年更新で、口数に上限はありません。賛助会規約、入会・寄付申し込み書は下記又は各事業所に設置してあります。

申込先：社会福祉法人SKYかわさき 法人本部（受付時間：月～金 9時～17時）
住 所：〒214-0014 神奈川県川崎市多摩区登戸 2341-1

ご寄附御礼

泰山木の会(家族会)様から10,000円のご寄付をいただきました。

その他のお知らせ

社会福祉法人設立記念映画会のお知らせ

コロナ禍のため、延期してきたイベントを簡略化して、下記の通り実施する予定です。
感染状況により中止・延期、内容変更する場合があります。

日 時：令和3年7月5日(月)

場 所：川崎市アートセンター アルテリオ映像館

上映作品：不安の正体 監督：飯田基晴 映像グループローポジション制作

内 容：グループホーム啓発ビデオ(当法人グループホームメンバー多数出演協力)

きたのばのば

地域活動支援センター きたのば

～コロナ下で出来たこと～

2020年。日本中・世界中が新型コロナウイルスの影響を受け、今まで当たり前だったことが出来ない状況が続いています。きたのばでも販売がほぼなくなり、レクも中止、ボランティアさんが来て下さる昼食サービスも中止……。そんな中でもコロナ下だからできたこと、気づけたことがあります。今日はコロナ下でのきたのばの取り組みをご紹介します。(下はあえて下としています。)



ミニエコバック



しまいマスク
マスクがしまえます

～出来たこと1 新製品の開発～

コロナ下だから必要なものを作ろう!!と新製品を発表。

「しまいマスク」「ミニエコバック」。

販売する場所がないにもかかわらず、どんどん売れています。

～出来たこと2 新しいつながり～

販売がないなら置かせてもらおう!!

と商店街の写真屋さんさんに製品を委託販売していただきました。

地域の輪が広がり、売り上げも上々。まさに一石二鳥です。

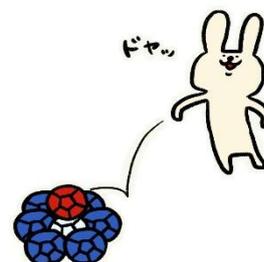
予想以上の売り上げにメンバーさんの製品の魅力を再発見。

～出来たこと3 初めての会食じゃない忘年会～

今年度の忘年会は利用者さんの発案で「大ボッチャ大会」を開催。

白熱する勝負に盛り上がり、みんな大満足。

ボランティアさんからのお菓子や飲み物のおみやげも年末の行事に花を添えてくれました。みんなでレクを楽しむことの大切さも改めて感じました。



～出来たこと4 ネット販売開始～

コロナ前からずっと話題に出ていたネット販売。機が熟しました。きたのばはネット進出いたします!!2月より「STORES(ストアーズ)」で販売開始。Instagramも始めましたので、是非チェックしてみてください!(販売価格は手数料・送料などを含むため、きたのば店頭価格とは異なります。ご容赦ください。)



←Instagram

@kitanovashop



←ネットショップ

<https://kitanovashop.stores.jp/>

～出来たこと5 つながりの温かさ再確認～

エプロン27枚、ミトン大2枚、バレッタ5個、今頂いているご注文です。

このご注文以前にもいろいろな方からご注文いただき、

来所された方が購入して下さることも多く、みなさまからの「応援」を感じます。

ウィズコロナはしばらく続くけど、みんな体に気を付けて。

応援、ありがとにゃ。



～新型コロナウイルスを通して～

4月の緊急事態宣言から開所日数を減らす、利用人数を制限するなどの対応をしてきました。自粛を求められる生活は「憩いの場に通所すること」について見直す機会にもなりました。新型コロナウイルスと向き合いながら実施するプログラムを通してさくらスタジオをご紹介します！！

○現在のプログラム

- ・ 同じ空間で個々に取り組める「絵画・書道の日」
 - ・ 顔を向き合わせずに楽しめる「YouTube鑑賞会」
 - ・ メンバーの希望に沿った「映画鑑賞会」
 - ・ 広い空間のあるハーブカフェ・らららで行った「ランチ会」
- などコロナ対策を工夫して毎日プログラムを行っています。



○メンバーの声～私のさくらスタジオ～

- ・ 家族や受診以外で日常の会話ができる場所
- ・ 自分のコンディションに合わせて気軽に行ける場所
- ・ 自粛期間で通わなくなったら生活リズムが崩れた
- ・ 劇団のプログラムなど何か一緒に作り上げる機会が欲しい
- ・ 普段はしない外出やイベントをしたい
- ・ 楽しくしゃべりながらお茶や会食をしたい

就労継続支援 B 型事業所 はっぴわーく
多摩区登戸 2959 TEL/FAX 044-299-6367

2020年9月13日、テレビ神奈川「かながわ旬彩ナビ」でジャムの取り組みが紹介されました。

テーマは「しあわせのカチ♡縁の下の川崎農業」。

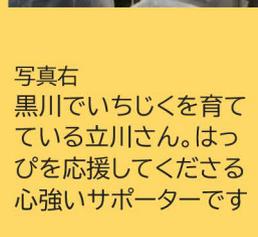
はっぴわーくがジャムを作り始めて早10年。多摩川梨から始まり、今ではかわさきそだちにこだわったジャムも10種類に増えました。その材料となる果物や野菜を提供して下さる農家さんは9名もいらっしゃいます。まさにはっぴにとって農家さんは縁の下の力持ちであり、番組ではそのつながりに焦点をあて、ジャムができるまでを丁寧に紹介しています。今回は新しくラインナップしたいちじく栽培の立川さんと、新製品トマトソースの原料である桃太郎を百合ヶ丘で栽培している木下さんにご出演いただき畑の様子やはっぴとの関わり、その思いについて熱く語っていただきました！もちろん、メンバーの作業の様子やインタビューなど見どころは盛りだくさん！放送を見た方からは「はっぴの活動が良くわかるいい番組だった」とのお言葉も。昨年はコロナの影響でイベントが軒並み中止となり、売上がほとんど見込めず途方に暮れていましたが、番組で電話注文を受けたところ多くのご注文をいただき、月の売上の最高額をマーク。農家さんをはじめ番組を制作して下さった番組スタッフに感謝の気持ちで一杯です。



かながわ旬彩ナビ テレビ神奈川
旬彩キャッチャーのはるるんが、神奈川の食と農をお伝えする情報番組です
毎週日曜日 9:00～9:30 放送中！



写真左
ジャム製造室の撮影風景。5人のメンバーで梨ジャムとトマトソースを作るので当日はフル回転でした！



写真右
黒川でいちじくを育てている立川さん。はっぴを応援して下さる心強いサポーターです



地域相談支援センターひまわり

～ひまわりの感染症対策～



新型コロナウイルスにより、もう1年近くも生活や仕事に影響が出ている今の状況ですが、

ひまわりも1回目の緊急事態宣言では感染拡大防止のために、訪問での支援を控える日々が続きました。サービス等利用計画案作成のための聞き取りや、モニタリングは原則自宅で行うこととなっていますが、この期間中は電話での聞き取りが主となり、利用者さんにはご迷惑もおかけしたところかと思えます。

1回目の緊急事態宣言が解除され、感染予防に万全を期した上で業務を少しずつ戻し継続してきました。

現在は2回目の緊急事態宣言が発出されましたが、これまでと同様に、体調確認・手洗い・消毒・マスクの着用・密集にならない等の感染予防策を取り、利用者さんや関係機関と相談しながら訪問や会議の設定をしています。

人と人との繋がりを支援していく私たちですが、このような状況になり、改めて人との繋がりの大切さを実感しています。

地域との繋がりを必要としている方々に対し変わらぬ支援をしていくと共に、新型コロナの早期の収束を願っています。



●共同生活援助事業所 ホームSKY

桜の風 「もみの木」の取組から学ぶ

ご存知の方も多し障害者支援施設 桜の風は、地域生活を目指す、身体・知的・精神に障がいのある方たちを支援する通過型施設です。中でも精神に障害のある方を対象にした「もみの木ユニット」の職員の方を昨年12月10日にグループホーム職員会議にお招きし、その実践的な取組を伺いました。

もみの木では、宿泊型自立訓練（ロングステイ）、短期入所（ショートステイ）の2種類のサービスが提供されており、ご自身の希望される地域生活への移行や地域生活の定着を目的に職員がバックアップします。SKYかわさきのグループホームでも近年は3年程度でホームを退去＝卒業する方が増えてきました。そこで自立生活の応援の方法や、アパート探しの現状などについて質問してみました。



前列左のお二人がもみの木の職員様

Q. 卒業に向けてのモチベーション（やる気）のあげ方は？

⇒もみの木を卒業してどのような生活をしたいかイメージ作りをしています。1年通算4回のプログラムの積極的参加を促しています。

Q. 2019年の卒業した方の現状を教えてください。

⇒ある方は保証人等の課題や、入居日未定で物件確保が出来ず、物件探しが難航しましたが、6ヶ月目で決まりました。

現在、もみの木の利用者は30歳代前後が多数ですが、中には60歳以上の方もおられます。先進的な取組をされているもみの木ですが、卒業後の支援に思うように労力が割けないことが課題だそうです。その問題意識もあり、もみの木卒業生のOB会などが定期的に催されているというお話でした。SKY

かわさきのグループホームにお住まいの方の中でもOB会に参加されている方は「もみの木で卵焼きの作り方を教わった！」とおっしゃっていました。自立生活の精神面、スキル面…両面での支援の大切さを学んだひと時でした。

百合丘地域生活支援センターゆりあす



福祉教育授業～ナギーさんが 柿生小学校の子どもたちと 出会った～

2019年度、「4年生の総合学習の授業で講義をしてもらえませんか？」と、麻生区社会福祉協議会を通じてご依頼いただきました。柿生小学校の4年生、約120名の前で、ゆりあすメンバーのふくちゃんをご自身の体験談をお話したり、体の重さ・ダルさを疑似体験できるような試みを行いました。

2020年度、コロナの影響で休校等もありましたが、柿生小学校から「今年もお願いしたい」とご依頼いただきました！ご縁が繋がったことが大変嬉しく、「ぜひ！」とお引き受けし、今年度はナギーさん(+ダメだしくん)と講義を行いました。



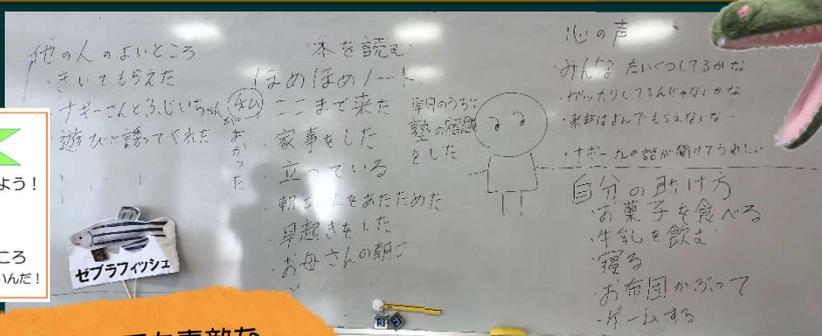
魚やオランウータンも心の病になってしまうこと、ナギーさんの体験談(子どもの頃のお話、仲間ができて回復してきたこと、まだまだご自身の課題と向き合っていること)などお話し、「ほめほめノート」を実践体験してもらいました。昨年同様、生徒の皆さんはとても真剣に興味深くお話を聞いて下さり、自分自身を大切にすること、仲間や困っている人に気付いたら手を貸してあげることなど、多くの事に気づき考えるきっかけになったようです。たくさん質問もあがり、声を発することに制限のある中、熱気あふれる時間となりました。

ほめほめノート

今日の良かったことを書いてみよう！

- ①自分の良かったところ
- ②自分じゃない、他の人の良かったところ

思い浮かばなかったら、それでもいいんだ！



ダメだしくん
ナギーさんの頭の中で
厳しく、時に愛のある
ダメだしをする声

生徒の皆さんからとっても素敵なお手紙をいただきました。こちらこそ、ありがとうございます！



～ナギーさん感想～

正直、大変でした。原稿づくりが。どんな内容なら、話し方なら上手く伝わるかなと、ゆりあすのメンバーにも協力してもらって。たくさん頭を悩ませました。こんなに素敵なお手紙で感想を伝えてくれて、とても感動しています。やって良かった。

心のびょう気を持っているのに話してみれば心のびょう気を持っていないようでした。ナギーさんのおかげでたくさん勇気ができました。その時ナギーさんはとてもかがやいていましたよ。



ナギーさんお元気ですか。前に私は話を聞いてよかったです。私も時々自分が消えたいと思います。でも、私は、ナギーさんの話を聞けてとても嬉しかったです。



紙ひこうき

令和3年 3月号

地域活動支援センター 紙ひこうき
〒214-0014 多摩区登戸 2341-1
TEL/FAX 044-922-3686

今号の紙ひこうきでは、普段と違う生活を送らなくてはならないこんなご時世だからこそ読んだ人を勇気づけたり参考になるようなことを発信しようと話し合い「目安箱」というプログラムの中で話題に挙がったことを載せることとなりました。

「目安箱」とは、日常生活で困ったことや気になる事などを、参加者それぞれの体験を話すことで想いを共有し参考にするプログラムです。

これを見た皆様と少しでも想いを共有し、先の見えない不安の中で暮らしていくための一助になればと思います。

紙ひこうきとは…

精神に障がいのある方の地域生活を支援する、地域活動支援センターです。自分のペースで来られる憩いの場、自分たちで創り上げる自分らしさの場として活動しています。

①アパートに住んでいますが、他の部屋の人の物音がうるさくて困っています。大家さんや警察に相談していますがなかなか解決しません。皆さんは近隣トラブルの経験はありますか？

<話題提供者より>
自分だけでなく、皆も経験があるのだと知り、心強く感じました。

②新型コロナの影響で自宅で過ごす時間が増え、ストレスです。年末年始なども不安。みなさんはどんな風に対処してますか？また、コロナで特別給付金が支給されましたが、何に使いましたか？

<話題提供者より>
ずっと孤独感を感じていましたが、皆で話せて良かった。

<具体的な対処について>

- ・自分一人で抱えず、不動産屋や警察を通すのが安全。騒音のあった時刻の記録も残す。

<メンタル対策について>

- ・人には人の事情がある、気になってしまうのは自分に余裕が無いから、と考える。

<似たような体験について>

- ・大家さんに愚痴ったりしている内に引っ越していったりする。多少の生活音は我慢。
- ・隣人の事情を知ったらそれはそれでこっちが辛い気持ちになった。
- ・役所に相談すると良い場合もある。

<自宅で過ごす時間について>

- ・この機会に家の片付けをして過ごしています。いつもなら出来ない家事をやってみたり。
- ・近所を散策したり、読書したりしてます。
- ・テレビを観て過ごしています。

<メンタル対策について>

- ・抑うつ状態になります。孤独感もある。

<特別給付金の使い道>

- ・家賃の前倒し、引っ越し費用にした。
- ・ソファとテーブルを購入しました。
- ・お取り寄せでモツ鍋を試してみました。

=== コロナの事で暗い気持ちになりがちですが、コロナが収束したら何がしたい？という楽しい事も話題にしていきたいです。 ===



就労継続支援B型事業所 があでん・ららら



があでん・らららでは近隣の東柿生小学校の子どもたちとの交流を続けています
 昨年は2年生と5年生が総合学習の一環としてがあでん・らららの見学や
 ハーバルバスのワークショップを開催しました

当日は1クラスを2つのグループに分けるなど感染予防に配慮し行いました
 両日ともに天気が良く、ガーデンや温室から子どもたちの元気な声が
 響き楽しい1日となりました



ハーバルバスのワークショップでは
 レモングラスやラベンダー
 ミントを自由に組み合わせ
 自分だけのオリジナルハーバルバス
 を作ってもらいました

LET'S
TRY!

らららの見学では活動内容や
 製品の紹介、メンバー自身の
 体験談を話しました
 子どもたちからは「があでん・ららら
 の由来は何ですか?」などたくさんの
 質問をいただきました
 私たちにとっても改めてららら
 を知る良い機会となりました



また、見学時に「マロウ」というハーブを
 使ったハーブティーをいれました
 マロウから出るエメラルド色から
 レモン汁を加えると不思議なことに
 ピンクに色が変化するので「エメラルド
 ローズ」と名付けて販売している
 ハーブティーです
 何を加えると色が変わるのかという
 クイズを出すと「牛乳」「水」「何かの
 粉」など楽しい回答がたくさん出ました



学級通信、クラス新聞で
 らららのことを
 取り上げてくれました

この見学の後、2年生はお母さんと一緒に、5年生はクラスのみならずカフェに来てくれました
 今後もらららが地域に根付いた場所となるよう活動を続けていきます

・・・みんなの広場・・・

～ SKYメンバーの投稿コーナー ～

SKYメンバーの日常を切り取ったホットな投稿をお送りする「みんなの広場」。
今号も素敵な作品がたくさん集まりました！存分にお楽しみください★



「ネコのお花見」 PePe (ホームすみれ)

走れヨット 夢常甚足(ホームカンタービレ)

広い海 青い波 走るヨット 若き血潮
誰がための海だ 俺のだ 俺の海だ

カモメよカモメよ泣け 叫べ
真っ赤な太陽 モエロモエロ

今日の命は今日しかない
明日はない 俺にはない
俺の命は今日しかない

走れ真っ赤なヨット
水平線に向かって 追走れ 走れヨット
夕日はしずむ 命は尽きた 俺の海よ
額の汗は俺の勲章 誰のものではない
流れる泪 何だろう今日の命か
明日も走ろう 嵐が来たって
走ろう命を賭けて 命を賭けて

居場所

いまを(紙ひこうき)

つばさが折れた 迷い鳥たちが
羽根を休める暖かい宿り木

そこに集って 語らい合えば
折れた翼も蘇り明日という大空へ
再び飛び立てる

紙ひこうき

まだ見ぬ明日は すぐそこにある

闇ひこうき

踊り子3号東京行き(紙ひこうき)

熱い紙ひこうきが好きだ
昔はもっとみんな揉めていた
揉めているのが楽しい

終わりの見えないミーティング
光の見えないミーティング
まるで闇ひこうき

その闇を抜け
今の紙ひこうきがある

花の道 夢路(紙ひこうき)

春は道を用意してくれた
百花繚乱 花の道

黄金に輝くレンゲキョウ
白く輝くユキヤナギ
薄紅の花をまとった桜
美しいアーチを描いている

花の道は落下粉々 まるでそれは
桜のカーペットのよう

悠々となにがあっても
ピンチをチャンスに
チャンスをチャレンジに

その小さな一歩が
やがて大きな変化をもたらすであろう



「私の趣味」 ペケペケ(紙ひこうき)



一眼レフのフィルムカメラの良さを教えてくれたのは身近なメンバーの一人です。彼が購入する際に、少しお手伝いをした事がきっかけで、自分用に中古で一台購入しました。彼が撮った写真を見せていただき、その柔らかい空気感が何とも言えず、ユーチューブ動画の時代に、アナログな静止画の魅力にはまりました。師匠である彼の被写体は「日常」です。ただただ目の前の日常。目新しく「映える」ものではなく、毎日の積み重ねが人生であり、悩みながら地味でも日々繰り返していることの中にこそ命

の生々しさがある、と師匠の写真は私に語ります。

という訳で、今の私の被写体は、マグカップ、眼鏡など、普段使いの「物」達です。シャッターを押す前のピント合わせ、光の調整、フィルムを巻く音、お店に現像にださないと確認できないドキドキ感は懐かしく、待つ時間もまた良いものです。まだまだご披露できるような作品は撮れていませんが、いまは目の前の「日常」をコツコツ重ね、いつかの夢に。

次回のつぶやき



ひまわり 伊藤さん

FROM : ホームSKY 石井さん

次回のつぶやきは～?

■新職員紹介報告

ホームSKY 紙ひこうき 三瓶 友樹さん

5月に入職しました。職員の方々やメンバーさんの慈悲深いサポートを頼りに、たまに料理をしたりたまにギターを弾いたりして、充実した日々を送っています。未熟者ですが未永くよろしくお願いいたします。

■編集後記

何もかもはじめてづくしの日々の中、今号の発行に携わらせていただきました。たくさんのお力添えをいただいたおかげで、何とか無事役割を終えられたかな、と思っています。特にみんなの広場に投稿された作品には私自身にも愛着があります。今後もSKYかわさき通信の紙面が充実するような活動を、メンバーさん一人一人と一緒に続けていけたら、と思っています。(瓶)

社会福祉法人になって初めての発行になります。以前の通信と何が違うのかと問われると大きな違いはありませんが、これから少しずつ変わって行くのかなと思います。NPO法人から各事業所、メンバー、職員が協力して作り上げてきた通信を受け継ぎ、みなさまに愛される通信になれば良いと思います。ホームページも新しくなりました。スマホ対応になっているのでぜひご覧ください。(杉)

